

安来高新聞



発行所：安来高校新聞部
〒692-0031
島根県安来市佐久保町115
TEL：(0854) 22-2840
FAX：(0854) 22-3612

一年生悪天候のスキー研修

短い時間で絆を深めた



初めてのスキーを楽しみ、一生懸命滑る

1年生が2月9日、10日の2日間、大山スキー研修に参加した。前日に急遽ナイトスキーの中止が決まり、2日目も悪天候のため午後からの研修がなくなるなど、例年のスキー研修と比べ滑る時間がとてまもなくなくなった今回の研修だった。

悪天候の中、生徒たちはそれぞれの班に分かれ、インストラクターさんに滑り方をはじめ、スキーに関する様々なことを教わった。滑っている途中、猛吹雪で1メートル先も見えにくい時もあったが、誰一人怪我などすることもなく無事に帰ってくることが出来た。夜は、ナイトスキーがなくなったため、全員で2時間みっちり勉強をした。2日目の午前中には少し太陽も見え、山の上から、少し雪が積もりほんのり白くなっている下の町を眺めることができ、とてもきれいだった。土江光夏さんは「寒くて、天候も悪かったが、楽しく滑れてよかった。少しずつ滑れるようになっていくことが楽しい。晴れていたらよかったですと思う」と少し疲れた表情で話し、遠藤未央さんは



山頂で記念撮影をする生徒

「普段使わない筋肉を使っただけだったので、足が痛い。途中吹雪が顔に当たり痛かったが、楽しかった」と笑顔で話した。今回のスキー研修は、例年とは異なる部分が多々ある中で、協力し合い団結力を高めることができた。今後も学年一体となって行動することが多くなるが、この経験を生かしていきたい。（友）

佐久保発

告白しない
バレンタイン!?

バレンタインデーという行事は、日本では1958年ごろから流行した。日本でバレンタインデーにプレゼントを贈るきっかけを作ったのは神戸の洋菓子店「モロゾフ」で、そこから内容は日本独自の発展を遂げた。今までは女性が男性にチョコを渡し、告白する日というのが定番だったが、最近身近でバレンタインデーに告白したという話は聞かなくなり周りでも友達同士でチョコを交換し合う「友チョコ」が定番化している。そして毎年「○○チョコ」という名で流行が発信されているが、今年は男性が自分のために買う「俺チョコ」が出現した。男性が自分のためにチョコを買うのはチョコなどの甘いものが好き、魅力ある限定品に惹かれた、自分へのご褒美などの理由が挙げられる。しかし、私のクラスメイトのある男子は毎年お母さんからチョコをもらうから自分のためにチョコを買う必要がないそうだ。日本のバレンタインデーは「愛の告白」から「友チョコ」「俺チョコ」に発展していき、性別を超えて楽しめるチョコレートの行事へと変化している。（葉）

中国新人バレーボール大会 女子準優勝 男子B4の活躍

男女バレーボール部は1月13日から松江で行われた県新人戦で見事優勝を果たし、2月4日から5日にかけて広島で行われた中国新人バレーボール大会に出場した。男子はベスト4、女子は準優勝と、どちらも好成績を残した。



必死でボールを追う（一月に行われた春高の模様）

男子は初日予選リーグ第三試合目に広島島の神辺旭と対戦した。一セット目は先取し、続いて二セット目、9-19と追い詰められたがそこから巻き返し、最終的には25-23で二セット目も取り、逆転勝利した。相手も取ったのである。

この大逆転に監督の井山先生は「開き直ってやるしかないと思った。選手には思いっきりプレーして、色々試してみるように言った。それが勝利に繋がった。ミラクルな試合だった」と笑顔で話した。キャプテンの吾郷翔哉さん（2年）は「全員チームに貢献し、楽しくできた。これから全国に通用するチームにしたい」と話した。

女子は13年ぶり二回目の準優勝を果たした。準々決勝では春高で準優勝だった岡山就実との戦いであったが、サブカットなど好プレーをし、見事勝ち抜いた。決勝戦は山口誠英と対戦し、惜しくも敗退した。反撃のミスが目立った。監督の岩田先生は「準



全国の壁を打ち破れ！（春高女子第1試合）

優勝ではあったが胸を張れる成績だと思う。このままきちんと力をつけてもっと固いバレーをしていきたい」と話した。

一月の春高バレー 全国一勝の壁は高し

男子安来	21	25	山形中央
女子安来	13	25	敬愛学園 (千葉)
	15	25	

第69回全日本バレーボール高校選手権が1月4日〜8日にかけて東京体育館で行われた。県予選で優勝し、出場権を得た男女バレーボール部が出場したが、男女ともに初戦突破はかなわなかった。

安来男子バレーボール部は山形中央高校と対戦し、序盤は相手に大きくリード

されることなく接戦だったが徐々に点差がひらき、惜しくも敗退した。

井山創太さん（3年）は「悔しい。ミスが続き向こうのペースになった。一年生が初めての春高で硬くなっていた。そこを上級生がもっとカバーできればよかった。新人戦では今回の経験を生かしてほしい」と話した。

女子バレーボール部は千葉の敬愛学園と対戦したが、序盤から相手のペースにのみまれ2セットとも取ることはできなかった。

藤井華香さん（2年）は「相手は強かった。全国ではまだまだだと思った。もっと一人一人がレベルアップすることが必要だ。今年春高に出場できて全国大会の会場の雰囲気を知れたことはよかった」と悔しそうに話した。（愛）

春高バレー応援 道中記 バレー応援の裏側

安来高校からは吹奏楽部と一般生徒、そして我々新聞部の総勢28名が貸し切りバスに乗り約13時間かけて東京へ応援に向かった。

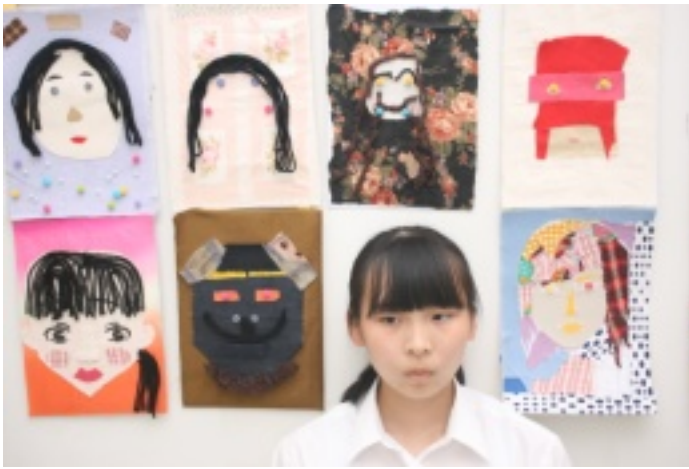
試合の取材は新聞部顧問のわれらが花井先生の奮闘によって、コートフロア上から写真撮影を行うことができた。しかし、コートフロアには他校の高校生記者の姿は全く見られなかった。実は、フロアでの学校新聞部による取材活動は許可していないらしいのだが、主催側スタッフの勘違いにより通された。結果として今回に限り、特別にコートフロア上からの撮影許可が下り、選手の近くから迫力のある写真撮影が可能になったのである。

吹奏楽部は総勢12名と、部員数が100を超えている学校もある中で、保護者の応援とともに大いに会場を盛り上げた。副部長の奈良井春菜さん（2年）は「今年は男女ともに出場を果たし、吹奏楽部にとっても良い経験となった。体力的にハードな日程で準備も大変だったが、応援演奏は楽しかった」と笑顔で語った。（柚）

バスケットボール新人大会

1月13日	出雲
男子1回戦	49 - 45 平田
2回戦	12 - 129 松江東
女子1回戦	104 - 30 出雲
	46 - 80 松徳
1年生の今井絹が引つ張った	

第38回よみうり写真大賞 写真部 遠藤穂乃花さん 杉原奈々さん 快挙



杉原さんの作品「さみしそうな少女」



遠藤さんの作品「憂鬱」

県下での入選は二人だけ!

読売新聞社主催の、第38回よみうり写真大賞に遠藤穂乃花さん(1年)の「憂鬱」、杉原奈々さん(1年)の「さみしそうな少女」が高校生部門で何万点もの中から入選を果たした。遠藤さんは「受賞したと知り、嬉しさよりも驚きのほうが大きかった。影が傘をさしている様子をきちんと表現しようと思い撮影した。これからは、影のもう少し発展したような写真を上手に、きれいに撮れるようにしたい」と話し、杉原さんは「周りが華やかなどころに、1か所だけ間があつた。

たので、ギャップを付けようと思いついた。今後は、技術をもっと上げて先輩のようになりたい」と今後の目標などを話した。写真部顧問の、板倉先生は2人の部員について「遠藤さんは、とても積極的で人とは違う角度からチャレンジする人だ。一方で杉原さんは色の感覚やセンスがすごく、構図の作り方が上手い」と分析し、「今後は基本ができているので会話力も磨いていき、写真甲子園を目指して頑張ってもらいたい」と熱く語った。(友)

2年生 勉強合宿

自分の可能性に気付けた2日間



三年生になる決意を徐々に固める

2年生の恒例行事となっている勉強合宿がサンレイク(県立青少年の家)で1月28日(土)の午後から29日(日)の午後まで行われ、計14名で挑んだ。キャリーバック一杯の教材を持ち込み、勉強に挑む参加者の姿も見られた。

合計13時間!!

この合宿の目的は『自らの意志で学習に取り組み姿勢をつくる』『級友の勉強する姿を励みとし、己の弱さや不足を克服する』『合宿をやり終えたときの達成感を、受験勉強へに自信に繋げる』の三つがあつたが、引率の先生は参加者に細かな指示は出さず、自分で時間を確認し行動する力を身につけるよう促した。

校長先生からのエール

校長先生は一人のイギリス人高校生を例に挙げ、1週間の勉強時間を聞いたところ、約80時間という答えが返ってきた経験があると話された。また島根県の高校生の勉強時間が国内で下のほうに位置するとも話された。この話は合宿に参加した生徒に強い印象を与え、校長先生の『世界の高校生に負けないくらい勉強してほしい』という熱い思いを感じとつた。

(業)

竹島を知ろう

根拠のある意見を持つためにできること

2月22日は竹島の日

1月21日、私たちは松江市にある竹島資料室を訪れ、竹島啓発推進員の方の話を聞いたり、竹島についての貴重な資料を見たりし取材を行った。

伊藤さんの話を聞く記者



啓発推進員 伊藤さんの思い

「竹島問題について正しい理解と、自分の意見に対する根拠を持つてるようにしてほしい」そう熱く語ったのは竹島啓発推進員の伊藤博

敏さん(71)だ。もととは教師をしていた伊藤さんだが、竹島について子供たちが学んでいく必要があると考え竹島問題の啓発推進員となった。現在は県内の公民館へ赴いて講義活動や、松江市に

ある竹島資料室にて竹島に関する正しい知識を広めるための活動をしている。資料室には竹島の模型や地図・写真、書籍には日本のものだけでなく韓国語で書かれた韓国視点のものも見られた。また資料室には地元の幼稚園児から韓国人観光客まで様々な人々が訪れ、竹島問題への理解を深

めている。竹島問題解決のためには「『竹島は日本のものだ!』とただ叫んでも何も解決しない。そうではなく、なぜその考えに至ったのかという根拠を示すことが大切だ。そのためには、竹島について関心を持ち正しい知識を



語る伊藤さん

持たなくてはならない。」と伊藤さんは語った。また、問題解決のためには島根県だけでなく日本の問題として考えることが必要不可欠だと伊藤さんは主張する。国全体で竹島に対する世論を高めることが、竹島問題解決の第一歩となるだろう。

またヘリポート、埠頭などの施設も作られ、埠頭ではファッションショーなどのイベントまでも開催されている。

年間20万人!!

竹島に行く韓国人

日本から見た竹島 1696年に幕府が鳥取藩に、竹島に近い島「鬱陵島」への渡海禁止令を出した。「鬱陵島」は韓国のものであったためだが、日本人は鬱陵島のかわりに竹島に漁をしに行くようになった。

1905年に無人島である竹島を日本に編入閣議決定。その際に竹島の領有権を持っている国がないか確認したところ、領有権はないことが分かった。そのため1951年9月8日にサンフランシスコ平和条約において竹島は日本の領土だと認められた。それにより韓国がアメリカ

力が発生する3か月前に、韓国の大統領が「李承晩ライン」を引き、竹島は韓国のもので主張して現在に至るまで占拠し続けている。また、日韓どちらのものとも決まっていない、竹島周辺の「暫定水域」では両国がそれぞれ自国の漁船を管理し、取り締まることと定められている。しかし、事実上韓国漁船に独占されている。

竹島の現状

韓国人は2005年から一般観光客用の船を出して2013年には年間20万人以上の韓国人が上陸している。ちなみに日本人も韓国の出入国手続きに従うと上陸可能だが、韓国の領土主張をみるとめたことに繋がるため日本政府は自粛を呼びかけている。観光客が増えたことから一般人が住むための家があり、24時間体制で警備をしている。



竹島問題啓発関連の缶バッジ

「竹島問題について正しい理解と、自分の意見に対する根拠を持つてるようにしてほしい」そう熱く語ったのは竹島啓発推進員の伊藤博敏さん(71)だ。もととは教師をしていた伊藤さんだが、竹島について子供たちが学んでいく必要があると考え竹島問題の啓発推進員となった。現在は県内の公民館へ赴いて講義活動や、松江市に

参考資料

『竹島』日本の領土であることを学ぶ『竹島の日条例制定10周年記念誌』

編集後記

皆さんはバレンタインをどう過ごしましたか。私はチョコに入っていたナッツが口の中に刺さりました。(愛)

